

# 令和5年度 伊那市立東春近小学校評価表

学校関係者評価；(A：十分達成された B：ほぼ達成された C：不十分であった) 自己(項目間相対を加味した到達度)評価 (a：十分達成された b：ほぼ達成された c：不十分であった)

学校教育目標	重点目標(中長期的目標)
たくましく 思いやりのある子ども  「失敗しても だいじょうぶ やってみよう」  ○ かかわり合って学習する  ○ 心を開く  ○ 心身を整える	令和5年度テーマ『伝え合って深めよう』  友だちとかかわり合って学ぶ、進んであいさつをする。学級の仲間と体験的な活動を通して、基礎学力を確実に身につけて、相手意識をもった子どもを育成する。
	今年度の重点目標
	(1) 伝え合って深めよう(知) 伝え合って深めよう ～考えを持つ～ ・間違いや失敗をおそれない、異なる考え(こと)を認め合う ・必要感を大切に話し合い ・相手を意識した「聞く」「話す」 ・地域の「人」「もの」「こと」と関わるふるさと学習「郷育」  (2) 自分からあいさつを広げよう(徳) ・気持ちよい朝のあいさつで1日がスタート ・感謝の気持ちを伝えるあいさつ(ありがとう) ・場に応じたあいさつ (こんにちは・失礼します・ごめんなさいさようなら・たがいま・「はい」の返事) ・地域に響くあいさつ(日々の生活で)  (3) よく遊び、よく働こう(体) ・学級での責任ある係活動 ・児童会当番・なかよし班活動の充実 ・集中して行う清掃 ・感謝の気持ちを持って給食の配膳・片付け ・体育館・グラント使用の活性化 ・なかよし学級等学年を超えた活動の推進、環境作り

総合評価		
○重点目標の達成を目指して、「自分の考えを伝え合うこと」に視点を当て、対話や話し合いを大切に授業改善に取り組んだ。児童の7割は「自分の考えや気持ちを話せる、どちらかと言えば話せる」と回答している。自分の考えや気持ちを話すだけでなく、相手の意見を聞いて更に考えを深めたり解決策を見出したりしていけるような授業展開の工夫が必要と考える。また、「失敗してもだいじょうぶ」という安心して話せる学級の雰囲気作りを大切に、学級づくり授業改善に取り組んでいきたい。 ○新型コロナウイルスが5類に移行し、数百年に制限のない学校行事が実施できた。東京方面への修学旅行、日間賀島への臨海学習、4年の長野見学も予定通り実施できた。また、地域の方を講師として地域探検や豆腐作り、保育園交流、昔遊び、聴覚障害者との交流など、学級ごとに特色ある総合的な学習を展開することができた。児童会行事は全校が参集して実施できた。 ○いじめについて、日常生活における児童の観察、児童へのアンケート、Q-U、職員間の情報交換、共有化等により早期発見に努めた。児童の訴えに対して学級担任や生活指導職員を中心に関係職員が丁寧に対応し解決することができた。今後もさらに家庭とも連絡を密に早期発見・対応や未然防止に努めるとともに児童の人権感覚の向上につながる学習活動を取り入れていきたい。 ○体罰についてのアンケート調査を、児童、保護者、職員に行ったが本年度も該当する事案の情報提供はなかった。今後も職員研修の充実を図り、体罰の根絶に努めていきたい。		
成果と課題	評価	改善策・向上策
○アンケート評価は「自分の考えや気持ちを話せる」と感じている児童の割合は昨年とほぼ同じである。自分の考えや気持ちを話す場面を多くする授業改善だけでなく、話せる雰囲気作りを大切に、よりいっそう開かれた学級づくりをめざすとともに、児童の表現力や聴く力をさらに育んでいきたい。 ○「聴く」ことが相手を大切にすること、自分を大切にすることにつながるという意識で、日常の授業において「聴く」ことを大切に扱ってきた。	B  b	○児童が友だちとの対話によって学習課題を追究していくような授業作りを意識する。 ○各教科の学習の中に、話し合いの場や、グループでの話し合いの場を設定し「はっきりとした声で自分の考えを伝える」「友だちの考えに心をよせて聴く」という意識の向上を図る。 ○児童会活動では、児童の考えや思いを話し合い活動に繋げる委員会活動となるよう支援する。 ○年度当初、地域素材に触れる機会を設け、地域の人・もの・ことに関わる学習活動を進める。
○児童アンケートでは「あいさつがよくできる」と回答している児童が多いが、職員や保護者は「不十分」と捉えている。児童会によるあいさつ運動や、呼びかけなどの働きかけだけでなく、あいさつをするときや、あいさつを返してもらおうと嬉しい気持ちになることなど、新上からの指導が必要だと考える。 ○総合的な学習の時間や学級活動で、活動が充実し学級としてのまとまりや達成感を感じているクラスでは、あいさつの声が大きくなっていった。	B  b	○児童会によるあいさつ運動やあいさつ集会など児童の主体的な活動を促し、教職員、保護者や地域で協力して取り組む。また、あいさつについての意識が高まるよう地域に対して情報を発信し協力を得られるようにする。 ○「おはようございます」「さようなら」などのあいさつだけでなく感謝の気持ちを伝える「ありがとう」も視点に加え、心のこもったあいさつができるよう継続した指導を行う。 ○生活科や総合的な学習の時間により多くの地域の人とふれあう機会を設け、あいさつが日常的にできるような環境を整えていく。
○朝や休み時間の校庭・体育館では、学年を越えて遊ぶ子どもたちの姿がある。夏の暑さ、冬の寒さにも負けず、元気に体を動かしている。 ○なかよし学級ごとの縦割り清掃は、高学年が低学年の手本となるよう黙って掃除に取り組んだり、低学年に優しく教えてあげたりするいい姿が多く見られた。清掃用具の正しい使い方や、雑巾がけの方法など、基礎的な指導を充実させる必要がある。 ○児童会の当番活動や、学級の係活動など、責任ある活動については、進んで取り組める児童が多い。	A  a	○他の学年や男女が混ざって仲良く遊ぶ姿を本校のよい特徴としてとらえ、全校集会や校内放送を通して一層推奨していく。 ○職員が清掃の基本的方法を学び意識統一して清掃指導にあたるようにする。なかよし清掃を実施し、高学年が低学年に清掃の仕方を教えるようにする。 ○児童会活動、係活動、当番活動などの活動を通して、責任感が高まるよう継続的に支援する。 ○児童が学校生活の改善に参画している意識が持てるよう、児童会当番活動の内容を精査する。

領域	対象	評価項目	評価の観点
教育活動	教育課程	○教育課程の展開	○体験活動を大事にし、個々の児童につける力を明確にした教育課程を展開しようとしたか。
		○児童の考えを大事にした教育課程と読書指導	○児童会や行事他、学校の教育課程を児童の考えを大事にして展開しようとしたか。 ○読書指導に力を入れ、朝読書の時間を有効に活用したか。
	学習指導	○授業のねらいを明確にした授業づくり	○子どもの意識を大切に学習問題を設定し、板書することができているか。
		○授業の「めりはり」「みとどけ」を大事にした授業づくり	○グループやペアでの活動や体験活動を取り入れた授業展開と、みとどけの時間を確保することができているか。 ○基礎・基本を明確にし、教材の精選をして、子どもたちにわかりやすい授業を展開しようとしたか。
生徒指導	○一人一人を大事にする学級活動	○一人一人が学級に位置づけられ、生き生きした活動が展開できるようにしたか。	
	○情報の共有と組織対応	○職員会議・運営委員会・学年会などで、児童に関わる情報を提供し合い、配慮する児童の指導にあたったか。 ○いじめや不登校の問題が起きたとき、組織的に対応できる学校体制が整っているか。	
学校運営	安全	○安全の確保	○集団登下校・街頭指導及び安全の日の指導は、児童の安全意識を高め、日常生活に生かされているか。 ○施設・設備について日常的に点検や管理が行われているか。
		○食育の推進	○食育を重視し、給食指導に力を入れてきたか。
	地域との連携	○家庭への発信と相談	○学校や児童の様子を家庭に伝え、家庭からの相談には迅速に誠意をもって対応したか。 ○学校・学年・学級便りで家庭への情報発信に努めたか。
○地域の学習、通学路	○公民館などと連携し、地域の方に学んだり、地域について学習したりする機会を大事にしたか。 ○児童の通学における道路工事の予定や危険防止の取り組みを家庭に迅速に伝えたか。		

成果と課題	評価	改善策・向上策
○畑での野菜作り、収穫した野菜を使った調理活動、和菓子作り、聴覚障がい者との交流、ニューススポーツ体験、年間を通した米づくり、読み聞かせを中心とした保育園交流など、体験活動を重視した学習活動が多く展開できた。 ○3年生は公民館長を講師とした地域探検を1日半の日程で実施した。殿島城址公園にまつわる逸話を元に劇作りに取り組んだ。	A  a	○体験活動を重視した教育課程を構築するとともに、NRT検査や全国学力学習状況調査などの結果から学年学級全体の傾向を分析して、個々の児童の学力向上に向けた授業改善を行う。 ○支援を要する児童への対応は関係職員がチームを組んで指導支援し、状況によって外部機関とも連携を進めていく。
○児童会活動では、今年度の重点目標と連動させた月の生活目標を設定し、各委員会活動や児童集会に反映させて取り組んだ。児童会まわりは児童が主体となり、アイデアを出し合っ企画、運営し、全校が笑顔で楽しめる素晴らしい内容となった。 ○朝読書、図書館司書や職員による読み聞かせや本の紹介など、充実できた。児童会の図書委員会の企画により、図書館に来る機会が増え、読書のはばを広げることにつながった。	A  a	○児童会活動では、児童の考えを大事にして計画段階から実施までの見直しを持ち、達成感が持てるよう支援する。全校体制で支援できるように提案と反省を確実に行う。 ○家庭でも読書の充実に向けて、学級だより、学校だよりなどを通して啓発活動を充実させる。図書委員会の活動や本の紹介などに力を入れ、朝読書の時間の充実を図る。
○授業を担当している職員は、授業のめあてや学習問題を提示するなどして授業のねらいを明確にしている。子どもの疑問や問いをもとにした学習問題を設定するよう心がけ、子どもの意識の流れを大切に授業展開をしている。	B  a	○授業では「ねらい」に対しての「ふりかえり」を大切にしている。 ○知識理解の定着が難しい児童については、個別指導の時間をとったり、AIドリルを活用したりして、つまづきに応じた支援をしている。
○グループやペアによる対話を通して課題追究する学習展開を大切にしてきた。「教えてもらう」のではなく子ども同士が「学び合う」姿が徐々に育ちつつある。 ○アンケートで約9割の児童が「授業内容を理解できている」と回答しているが、テスト結果から十分に学力が定着しているとは言えない。D層の児童への細やかな指導が必要である。	B  b	○分かったことや身についたことを明確にし、次時の課題に見直しを持てるように、毎時間の授業の「ふりかえり」の時間を確保し、自分の言葉で綴るようにする。 ○算数における少人数学習、家庭学習の充実、家庭との連携の工夫など、学力向上や基礎学力の定着に力を入れていく。
○「楽しく学校生活を送れているか」の問いに対し、児童・保護者ともに約9割が肯定的な回答である一方、約1割の児童が否定的な回答をしている。Q-Uの結果で要支援となっている児童について、状況を把握し対応策を考えていく必要がある。	A  b	○学級での話し合い活動、係活動の充実を図り、集団への帰属意識が高まるように支援する。また、Q-U検査結果を分析して学級運営を試みる。 ○日々の生活の中で互いの良さを認め合う場面や全員で協力してやり遂げる活動を多くし、それを認めるような肯定的な働きかけを多くしていく。
○児童理解の時間を職員会議のために設け、気になる児童の行動や事案について情報共有し、指導の方向を確認し、関係教職員の共通意識のもとで対応・指導することができた。 ○いじめや不登校に対応する学校体制については、個別の実態に応じて関係者会議を開いた。現状把握から支援の方向を確認し、市相談室、SC、SSWなどと連携することができた。	A  b	○生徒指導事案については、生徒指導主任が中心となり、正確な事実の把握と教職員間の情報の共有化を図る。また、指導の経過を記録し、指導の一貫性を図る。 ○不登校傾向児童の支援については、担任、養護教諭、相談員、教頭などが、連絡を密に取り、外部機関にも連絡を取りながらチームとして支援していく。
○各学期最初の週には登校班ごとの集団登校を行い、PTAの方が歩行の様子を街頭指導した。 ○毎月の安全点検日には全職員で校内の施設・設備点検を行い、不具合があれば校務技師により修繕、または関係業者に依頼するなど迅速に対応した。	A  a	○地域の方からの情報に迅速に対応する。集団下校では通学路の危険箇所について、その場で安全指導を行う。 ○毎月の安全点検とともに、校内巡視では高所から落下や転倒のおそれがないかどうか、壁に突起物がないか等について子どもの目線で点検し、修理は迅速に対応する。
○給食では児童の育てたお米や昨年度手作りした味噌などの食材を献立に取り入れるなど積極的な取り組みができた。 ○食物アレルギー調査の実施、食事のマナーや身支度についての指導、児童会給食委員会の校内放送や給食だより、保護者へ食育に関わる啓発等による「食」に対する意識の向上に努めた。	A  a	○食物アレルギーのある児童については家庭との連絡を密にする。給食や調理実習、校外学習での食事などでも十分配慮をする。 ○栄養職員が食育の啓発活動を行うとともに、「食」の大切さと楽しい給食を目指し、児童会活動とも連携しながら取り組む。
○オクレンジャーを活用し、学校からのお知らせの多くを配信にした。行事開催の1ヶ月前の通知に心がけたが、保護者からはできるだけ早めに知らせてほしいとの要望があった。 ○保護者からの相談について、管理職とも相談しながら誠意をもって対応し、必要に応じてスクールカウンセラーや子ども相談室などの外部機関に繋げている。 ○ホームページを随時更新し、保護者や地域の方に学校教育活動についての情報発信ができた。	A  b	○学校からのお知らせは、なるべく早く細やかな連絡を心がける。遠足の持ち物など、必要に応じて紙ベースで配布し、子どもが自分で確認できるようにする。 ○ホームページをできるだけ更新し、学校の行事や児童の学習活動の様子を地域の方々にも発信していく。
○地域めぐりの学習、地元菓子店についての学習、地域の素材を元にした劇づくり、保育園交流など地域と関わった総合学習が実施できた。 ○安全面の取組では、地域や関係機関より寄せられた情報を基に、学年に応じた注意喚起の指導や家庭への情報提供など、迅速に対応に努めた。	A  b	○公民館と更に連携して、クラブの外部講師や生活科等の学習支援ボランティアを増やす。 ○生徒指導主任を中心に、地域住民や保護者からの情報に迅速かつ適切に対応する。 ○集団下校において職員が通学路を歩き、安全面の確認をして事故等の未然防止に努め

						る。
研 修	○計画的な研修	○テーマを持って、教育についての研修や研究を計画的に進めてきたか。 ○授業力の向上を目指し、日々の授業に生かせる授業研究に取り組んでいるか。	○本年度は「ICT」「UD」の2グループで研究を進めた。ICT カンファレンスの公開授業の機会をいただき、職員のICT活用の技能や児童のiPad利用率が向上した。 ○職員研修では人権教育、ICT活用、著作権等について研修を深めることができた。	B b	○「伝え合い」は、児童の表現力育成のための各教科共通のテーマである。本年度の成果をもとに各自の実践に活かす。また、自らの研究課題については各種研修研究会に積極的に参加して研鑽を重ねる。	
	○機能する校務分掌	○学校運営に職員の意見が反映され意欲的に取り組める環境にあるか。 ○校務分掌内の協力があり各分掌や学年間の連携連絡が円滑に行われたか。	○C4 t h 掲示板の活用により、職員連絡の時間が短縮した。教務学年主任会があまり開催できなかったことにより、多くの職員の意見を吸い上げることが不十分だった。 ○一部の職員に文章の負担が大きく偏ってしまった傾向がある。運動会や150周年式典などの学校行事では係の枠を越えて全職員で協力し合うことができた。	A b	○ふりかえりを大切にし、できるだけ来年度の計画案を作成していく。報告・連絡・相談のシステムを確立し、職員の声を直接学校運営に取り入れチーム力の向上を図る。	